

1 事前質問について

別紙「事前質問と回答」により、事前質問に回答した。

2 放流先河川の浸食について

委員から、放流先河川には、処分場からも放流しているので、浸食を少しでも減らすために、大雨時にはできるだけ放流水を防災調整池で貯めておいて、放流量を減らすことできないかとの意見がだされた。これに対し、一組委員から、防災調整池は 200 年に 1 度の雨でも洪水調整が出来るよう作られており、そのような雨が降っても下流の河川で洪水が起こることはない旨説明を行った。また、放流量を調整するためのバルブを設置することは可能だが、バルブが無くても洪水が起こらないよう設計されているので、そのようなバルブを設置する意味はない旨、回答があった。

3 埋立処分地の排水及び処分場の供用年数について

1) 性能指針との整合性について

委員から、埋立処分地の表面に水が溜まっているのを、前回の運営協議会での写真や現場で見て、非常に危険だと感じたので、本当に安全かどうか環境省に問い合わせたところ、「性能指針」によれば、埋立地の全部に保有水等が貯水されないように維持することになっており、「雨水のいちばん多い月の一日平均降水量が降ったときに、埋立地の水位が 50 センチ以下になること」と書いてあることが分かった。それで、計画時の既往日降水量と埋立処分地に水が溜まっていた昨年 7 月の一箇月間の降水量について事前質問で質問したが、説明が専門的でよく分からなかった。なので、第三者の専門家をアドバイザーみたいなかたちで入れた話し合いの場にすれば、もっと一般の委員も参加し易くなるのではないかとの意見があった。

また、性能指針の中で、「埋立期間は 15 年程度を目安にする」と書いてあるが、焼却灰を埋め終えた後にどれくらいの期間、水を管理するか不明である。以前質問したときは、だいたい埋立期間の倍くらいの年数がかかると言われ、この施設は 17 年間埋め立てるので、そのおよそ倍かかったとして、34 年間ここで水を管理することになる。仮に 20 年から 25 年間埋め立てるとなると、40 年から 50 年間この施設が稼働することになり、50 年間、水のろ過器が本当にきれいに動いているのか疑問である。そのことを考えると、昨年、埋立期間について質問したときは「この場で話し合うような議論する問題ではない」と回答を受けたが、そうではなく、やはり性能指針の 15 年程度を目安というところも踏まえ、住民のことも考え、その先はどうなるべきなのかということをお話の中で含めていただきたいとの意見があった。

これに対し、一組委員から、時間がないので、性能指針の件は後で調べて回答すると回答した。

2) 埋立方法の変更と作業への影響について

委員から、これまでは埋立地内の水を特定の箇所に集めて乾いた所をつくり、重機作業を行っていたようだが、今は水が溜まっていない代わりに、全体がズブズブになっており、重機が載ると作業的に危険ではないのかという意見があった。これに対し、一組委員から、水溜まりがあると、その底に粘土質の不透水層を形成され、埋立層の内部に宙水を発生させる可能性があり、埋立層内は均質であることが理想であるので、埋立方法を改めさせたとの回答があった。

4 一組委員の説明について

委員から、「説明が難しく、また、年に一度の開催だと、新たな疑問が生まれた際、どこに持って行っているのか分からない」と以前発言した際、前座長は、「町の権限でこれ以外の勉強会を開く」と言っていたが、開かれないままになっているので継続してほしいとの要望があり、座長から、前任に確認して対応すると回答があった。

また、委員から、難しすぎて分からない。2 時間ではなく 4、5 時間かけて分かるように説明するような姿勢が欲しいとの意見があった。一方、他の委員等からは、よく分かりましたとの意見もあった。一組委員からは、今日の説明については資料のページの記載がない等、説明の際に分かり難いと思われる部分があったことは反省しているとの回答があった。